

津波・高潮

津波

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分後を目処に津波警報(大津波、津波)または津波注意報を発表します。

津久見市は津波災害警戒区域に指定されています

「津波災害警戒区域」の指定

平成23年3月の東日本大震災では、想定をはるかに超える大津波により、広範なエリアで甚大な被害が発生しました。これを受け、『津波防災地域づくりに関する法律』が平成23年12月に成立し、津波被害を防止または軽減する効果の高い地域整備の方針が定められました。平成26年3月に、南海トラフ地震等により発生する最大津波を想定した「津波浸水想定図」が県から公表され、これを基に津久見市は令和5年3月に「津波災害警戒区域」に指定されました。なお、津久見市のホームページにおいて、10メートル四方を単位とした津波災害警戒区域図で各地区の基準水位の想定を確認できます。

「津波災害警戒区域」ってなに?

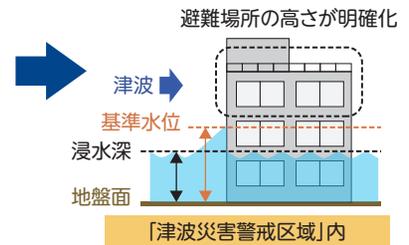
いざという時に津波から「逃げる」ことができるよう津波災害に備える必要があるエリアです。区域内の各人が津波災害のリスクを十分に理解し、平時から避難場所・避難所・避難方法・避難経路を確認するなど防災意識を高めることが重要です。

津波災害警戒区域に指定されると

- 大分県が指定した「津波浸水想定」における従来の浸水深に加え「**基準水位**(※)」が公表され、より実効性の高い避難対策が可能となります。
- 津久見市地域防災計画に位置づけられた社会福祉施設や学校、医療施設などは、避難確保計画の作成・避難訓練の実施が義務づけられます。
- 津波災害警戒区域内の不動産の取引時には、宅地建物取引業法に規定している(施行規則16条の4の3)重要事項説明の義務が生じます。

(※)基準水位とは・・・?

想定した最大クラスの津波が建物に衝突した際のせり上がり(水位上昇)を考慮した水位であり、地盤面からの高さで表示します。
建築や開発行為の規制はありません。



津波警報・注意報の種類

※ 大津波警報は特別警報に位置付けられています。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定されるべき行動と取るべき行動
		数値での発表	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超 (10mを超える高さの津波が予想された場合)	巨大	巨大な津波が襲い木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
		10m (5m~10mの高さの津波が予想された場合)		
		5m (3m~5mの高さの津波が予想された場合)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1m~3mの場合。	3m (1m~3mの高さの津波が予想された場合)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m~1mの場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m~1mの高さの津波が予想された場合)	-	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。1m以下の津波であっても、車を浮かせ、人を押し流すエネルギーを持っているため、非常に危険です。

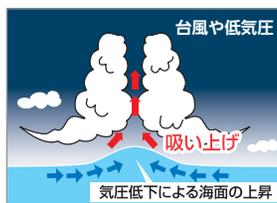
高潮

高潮が発生する仕組み

高潮とは、台風や発達した低気圧の接近により、海面が異常に高くなる現象です。高潮が発生するとその高い潮位と波浪・強風により、海水が堤防を越えるようになり、背後地が浸水する可能性が高くなります。また、高潮が発生している海域に流れ込む河川があれば、高い潮位や波浪により流れが阻害されます。そのため、河川氾濫が発生し、海岸から離れた内陸部にまで被害を及ぼすこともあります。

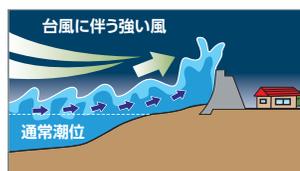
● 吸い上げ効果

台風や発達した低気圧の中心が接近すると、中心付近の気圧が低下し、海面が吸い上げられて上昇します。気圧が1hPa低下すると海面は1cm上昇します。例えば、950hPaの台風が接近すると、1000hPaだった時より50cm海面が上昇します。



● 吹き寄せ効果

台風による強い風が沖から海岸に向かって長時間吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が異常に上昇します。吹き寄せ効果は風速や海岸の状況により大きく異なり、V字型の湾の奥ほど高くなります。



高潮をもたらす台風の大きさと強さ

台風の「大きさ」は、強風域(風速15m/秒以上の強い風が吹いているか、地形の影響などが無い場合に吹く可能性のある範囲)の半径で表し、台風の「強さ」は、最大風速で区分しています。台風に関する情報の中では、台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で非常に強い台風」のように呼びます。

● 大きさの階級分け

階級	風速15m/秒以上の半径
大型(大きい)	500km以上~800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

● 強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/秒以上~44m/秒未満
非常に強い	44m/秒以上~54m/秒未満
猛烈な	54m/秒以上

- 高い場所へ速やかに避難する
- 河川や海岸には近づかない

- なるべく徒歩で避難する
- 避難指示に従う

- 正しい情報を入手する